



外国出張報告書

平成 26 年 7 月 4 日

1. 出張国名 ラオス
2. 出張月 平成 26 年 5 月～6 月
3. 出張目的 ミズアブ幼虫の現地調達可能な餌の探索・
養魚餌となる蛹の保存方法の検討・村への成虫トラップの設置：C

4. 成果の概要

養魚の餌として利用する目的でミズアブ幼虫飼育状況の確認をしたところ、3 月から野外の雌成虫が継続的にトラップに誘引され産卵していたにもかかわらず、幼虫密度が低いことがわかった。そこで、孵化直後の幼虫の生存率を高める試みとして、産み付けられた卵を小型容器に入れ、孵化後数日間飼育した後にトラップに戻すこととした。

幼虫を効率良く安価に飼育するため、現地で簡単に入手できる餌を用い、試験を開始した。蛹を魚類餌料として利用するための簡便な保存方法については、蛹を簡単に回収できるよう容器を二重に設置した。

年間を通した卵の供給に向け、成虫のケージ内飼育と交尾産卵のため、蛹から得られた成虫を小型ケージ内で飼育する準備を行った。

ミズアブ成虫用トラップをナムアン村に設置した。